

視察等報告（復命）書

三次市議会議長 様

報告者氏名 掛田 勝彦

下記のとおり、視察が終了したので報告します。

	会派代表者	掛田 勝彦	経理責任者	増田 誠宏
視 察 議 員	掛田 勝彦			
期 間	令和4年 1月20日（木）～令和4年 1月20日（木）			
視 察 先	自宅での■オンラインセミナーにて聴講 視聴サイトの URL から、Zoom をダウンロードのうえ開始しました。			
視 察 用 務	財政の視点から読み解く地方自治体の展望			
視察先対応者	学校法人 早稲田大学 WASEDA NEO 事務局			
概要及び所見	<p>内容</p> <p>講演 午後13:30～15:30 小林 麻理 氏（早稲田大学政治経済学術院 教授/ 全会計検査院長） 北川 正恭 氏（早稲田大学院名誉教授）</p> <p>都道府県市区町村各団体の規模を問わず、その4割の自治体が赤字におちいつている状況がある。改善しているかといえば、そうではなく赤字のところはずっと赤字で、赤字にはなっていないが財政の厳しいところはそのまま厳しいままになっている。財政が潤沢なところは少ない状況である。その様な中で、予算の組み方や税金の使い方が果たして適切なのか。将来人口は減少していく中で、納税者も減っていく。国も借金をするか増税をするかで賄っており、入りは減って支出が増えていく状況が待ち受けている未来がある。このような中で行政や議会に焦点をあてた内容であった。</p> <p>予算作成時に注意を払わなければならないポイントとは何か。今のような予算編成をいつまでやり続けることができるのか。予算がついたら必ずチェックが必要だが、その決算は今の様なやり方で大丈夫なのか。本当に決算から次の予算</p>			

につながるような決算審査になっているのか。少し大きな視点での問題提起がなされた。講演を受けて小林先生の話の内容が印象に残った。そもそも予算は計画に金額をつけたものであると言われた。計画って何かというと、目標の達成だということ。目標を達成するために計画を立てるということ。PDCA サイクルできちんと予算を執行したら、それがどのように効果をあげたのか。きちんと目標を達成できたのか。目的を達成したならばサービスの受け手であり受益者でもある市民（住民）がどのようなベネフィット（利益）を受けたのか。それが満足できるものだったのか。適切だったのかをチェックしていくことが極めて重要であると言われた。本来的には地方自治体は、住民にサービスを提供するわけで住民の求めるニーズに対して資源を適切に配分しているのか、ここの判断をしっかりとっていく必要性を説かれた。このような内容を通して、評価の視点として重要なのは効率性と有効性ということをつけ加えられた。特に DX の時代には、きちんと意思決定の基礎となるデータを共有しデータに基づく政策形成を行うことが大切になってくる。市民（住民）のニーズを自らくみ取ることが地方自治体議員の責務であり、必要などころに必要なものを届けていくことができるようになることも自治体議員の能力であり、それを構築していくことが必要であるとの内容でした。

数値目標の話があったが、政策の達成度を示すものとして、その政策効果を図る手段として、データを活用してデータ分析をすることもこれからの手法になると感じた。EBPM（エビデンス・ベースト・ポリシー・メイキング）証拠に基づく政策立案が近年注目されてきている。政策目的を明確化したうえで合理的根拠（エビデンス）に基づくような視点や考え方も必要である。今回のテーマで実感したのは、自治体議会の中で財政の議論が足りていないと感じた。特に自治体財政のところであれば、市民（住民）の方とどれだけ共有できているのか。このことについてもやるべきことは議会サイドでもあることを痛感した。財政の視点からみた自治体の問題点や議会サイドの課題を今後の取り組みの工夫に活かしていくべきであると思った。